

令和5年度 年間指導計画

A科:生物科学科 B科:環境科学科 C科:食農科学科

教科名	農業	科目名	造園植栽	単位数	2	履修学年・クラス	2B
担当者	使用教材 造園技術(東京電機大学)						
学習目標	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、造園植栽に必要な資質・能力を育成することを目指す。 ○造園植栽について、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ○造園植栽に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ○造園植栽について目的や環境に応じた合理的な植栽につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。						
学習方法	○実習・座学を通して造園の植栽施工と管理、造園樹木の管理について知識・技術を身に付けます。 ○高校在学中に、造園技能士や造園施工管理技術士の資格取得に挑戦するので、学科試験対策に繋がる学習を行います。 ○現場見学やインターンシップ等、校外での学習の機会を使いながら、社会人(職業人)に求められる資質・能力を養う。						
学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨				
	知	知識・技能(技術)	造園植栽について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。植栽材料の名前、特徴を知り、特性を見極めた施工法や管理法が選択できる。				
	思	思考・判断・表現	造園植栽に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。レポートを活用することで、課題を発見・思考する。樹木や草花の活用方法を判断できる。				
	態	主体的に取り組む態度	造園植栽について目的や環境に応じた合理的な植栽につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的に取り組む態度を養う。資格取得につながる学習でもあることを意識し、主体的かつ協動的に取り組むことができる。				
※定期考査については、上記の観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。							

学期	単元(題材)	学習内容	評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
			知	思	態		
前期中間	第1章 造園技術の特色と役割 ・造園技術の特色 ・造園施工と管理の役割	造園空間の創出と維持管理を行う上で必要な知識・技術 日本庭園と洋風庭園のそれぞれの特徴 造園の技術者資格 造園施工と管理の課題	○	○	○	[知] 造園技術の内容を理解し、職業としての造園の必要性がわかる。 ○ 日本庭園と西洋庭園の違いを理解している。 [思] 造園施工と管理の課題を把握し、その課題解決につながる方法、技術、環境整備など思考できる。 [態] 造園技術の内容や必要性に関心を持ち、造園資格取得に向け主体的に取り組もうとしている。	授業観察 実習態度 レポート作成と提出 考査
	第4章 植物及び工作物の管理 ・植物の管理	造園植物としての機能を発揮するための手入れ法 衰弱した樹木の樹勢回復 病害虫・雑草防除など基本的な管理作業	○	○	○		
前期末	第4章 植物及び工作物の管理 ・工作物の管理 ・景観の管理	庭園・都市公園・自然公園内に整備された工作物の維持管理 庭園と都市公園の景観を管理する見方・考え方 自然公園の保護・保全 現場見学	○	○	○	[知] 工作物の維持管理の必要性、方法を理解している。 造園技術は空間や景観を創造する職業であることを理解している。 工作物の管理に用いる道具類の取り扱いができる。 [思] 景観の維持管理するために必要な造園技術の選択ができる。 [態] 現場見学を通じて、庭園や都市公園などの景観を維持していくための意識や方法を知り、造園に関心が持てる。	授業観察 実習態度 レポート作成と提出 考査

後期中間	第2章 造園植栽施工 ・植栽とデザイン	インターンシップ(職業体験) 庭園製図(花農祭個人作品) 配植の方法 日本庭園における役木 植栽の方法	○	○	○	[知] 造園の仕事を経験し、職業人の理解が深まる。 造園の目的を実現させるための基本的な植栽計画が立てられる。植栽された造園樹木の機能について理解している。 [思] 庭園製図に取り組みながら、造園空間の構成、植栽の配置などデザインすることができる。 造園業の諸課題に触れ、解決をめざして思考を深め、基本的な知識と技術をもとに合理的に判断できる。 [態] 積極的な態度でインターンシップに取り組んでいる(受け入れ事業所の評価を参考にする)。 庭園製図(花農祭個人作品)の成果	授業観察 実習態度 レポート作成と提出 考査
後期末	第2章 造園植栽施工 ・芝生、花壇などの造成	門松製作・寄贈 芝生の種類と分類 芝生の造成手順と方法 花壇の種類と様式 造園施工管理技術者試験に関連した造園技術分野の振り返り	○	○	○	[知] 日本の伝統文化の理解・関心が深まる。門松の構成要素、意味を理解している。 芝生と花壇の造成に必要な基本的な知識・技術を理解している。 [思] 造園技術(竹の取り扱い、結束方法、配植など)をいかして門松を製作できる。 国家検定資格取得に向けた、造園技術分野の活用方法を選択できる。 [態] 門松の製作・寄贈を通して社会貢献活動の態度を深めることができる。 三年次の資格取得に向けた意識が深まる。	授業観察 実習態度 レポート作成と提出 考査